

教育メディア研究に論文を投稿しよう！

論文投稿時の留意点

京都外国語大学

マルチメディア教育研究センター

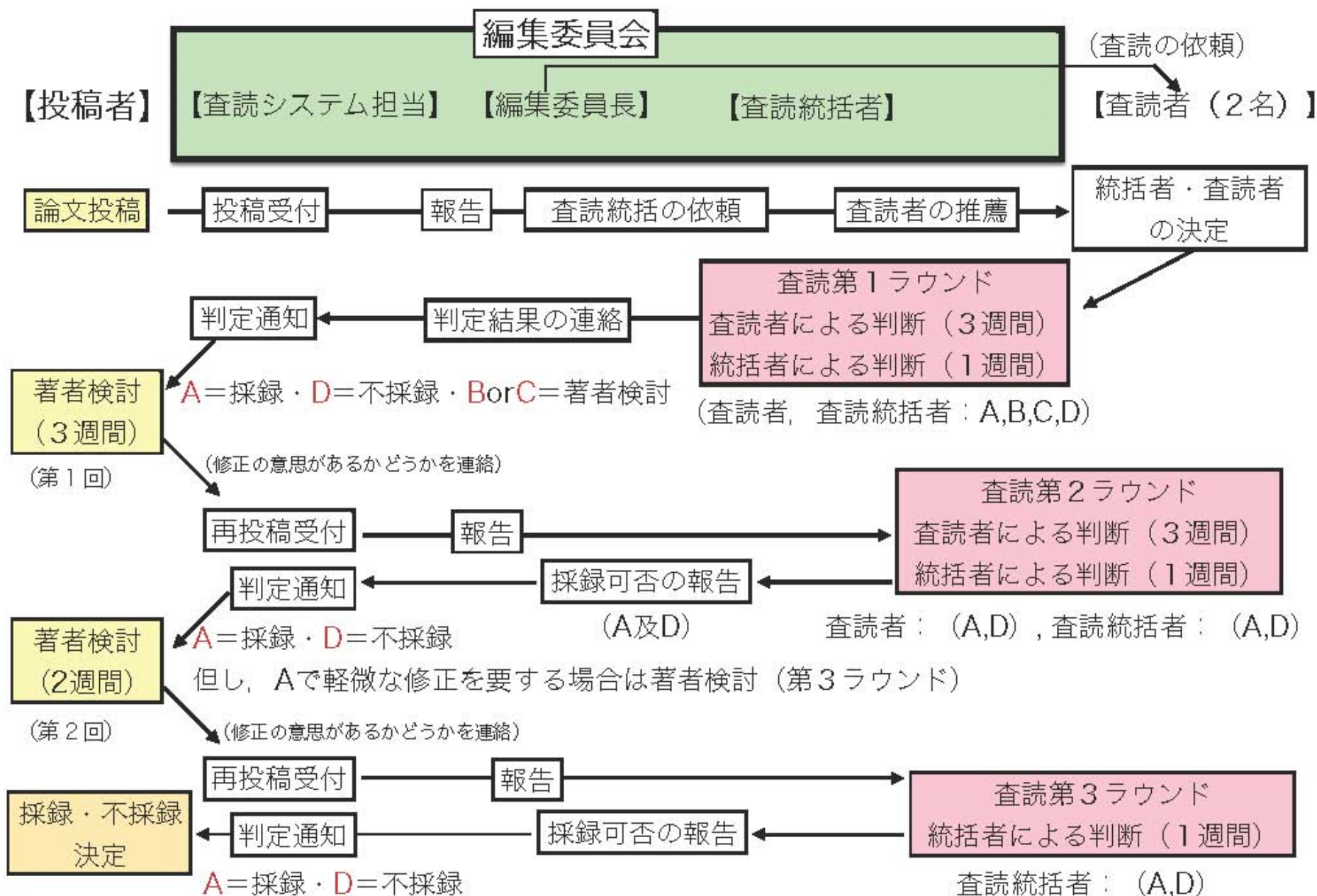
村上正行

masayuki@murakami-lab.org

教育メディア研究

- 年2回発行(うち、1回は特集号)
- 2回の査読を経て、採録・不採録が決定
 - 編集委員が担当
 - 2名の査読者が査読
 - A(採録)、B(軽微な修正を要する条件付採録)、C(照会後再判定を要する条件付採録)、D(返戻)

日本教育メディア学会 査読フロー



「教育メディア研究」の 論文募集について

- 特集号「特集号「タブレット端末環境と実践・評価・運用」(Vol.23, No.2)募集
 - 〆切:2016年7月30日
 - 特集号においても、一般論文を受け付け
- 教育メディア研究 (Vol.24, No.1) 投稿論文募集

論文の種類

1. 研究論文 (Original paper)

教育メディア研究に係る**独創的な研究結果**であり、**信頼性の高い**研究と認められ、教育メディア研究の発展に役立つ内容を論理的に記述した論文であること。10ページ程度。

2. 研究ノート (Research Note)

教育メディア研究に関する研究資料、文献研究、調査報告、教材開発など、会員に参考になる**有効な結果**が得られている論文であること。6から10ページ程度

3. 実践研究 (Practical Research)

教育実践に貢献できる問題提起と意義があり、**理論的な独創性が十分でなくとも**、研究手法や道具の開発、教育実践の改善や学習環境づくりなどについて**新たな視点を提供**してくれる論文であること。10ページ程度。

教育実践を対象とした研究の問題点

- 何がポイントか、という点が不明確
- 実践報告レベルのものが多く、研究視点が含まれていない
- 教育実践の目的と研究の目的がわけられていない
- 得られた結果が利用しにくい(一般性が低い)

研究の目的を明確にすること
理論に基づいて実践研究を行うこと
実践に活用できる知見の導出を意識すること

研究計画をたてる時に

- 目的
 - 研究の目的(教育実践の目的)を明確に
- 特徴
 - 新規性、信頼性、有用性のどれに着目するのか
 - それぞれ、どのように確保するのか
- 方法
 - どのようにしてどんなデータを取得するのか
- 分析
 - どのような方法で分析するのか
- 考察
 - どんな結果・知見を得ようとしているのか

目的

研究・教育実践の目的を明確に

- 教育実践の目的を明確にする
 - 受講生(児童、生徒、学生etc.)が何を身につけることになればいいのかをはっきりさせる
 - できるだけ具体的に表現する
- 研究の目的を明確にする
 - 教育実践の目的を達成する上で、何を明らかにしようとしているのか、はっきりさせる
 - 教育実践の目的と同じになっていないか確認する
- 教育実践の目的と研究の目的との関係を明確にする

特徴

新規性、信頼性、有用性のどれに着目するのか

- 新規性
 - 教育方法そのものが新しい
 - (異分野などへの)適用可能性を明らかにしている
 - 改善の過程の中に新たな知見がある
 - 従来研究に対しての研究の位置づけが必要

特徴

- 信頼性
 - 他人が同じ研究を行っても、同じ結果が得られる
 - そのための条件(範囲)を明確にしている
 - データを十分集めている
 - 一貫性がある(論理的な飛躍がない)
- 有用性
 - 対象となる教育実践の有効性を示している
 - 他人にとって、参考になる知見が示されている

方法

どのようなデータを取得するのか

- とれる限りのデータを取得する
 - ➡ あとでとりなおすことができない
 - プレ・ポストアンケート
 - プレ・ポストテスト
 - 学生の学習プロセス・学習ログ
 - 関係者のインタビュー
 - 観察記録
 - 実践の映像

分析

どのような方法で分析するのか

- 定量的な分析ができるのであれば、しておいたほうがいい
 - 基本統計量(平均、標準偏差など)
 - 統計的仮説検定(t検定、分散分析など)
 - 多変量解析(因子分析、共分散構造分析など)
- 定性的な分析を行う場合は、その方法・手順をきちんと説明しておく
 - KJ法
 - グラウンデッド・セオリー・アプローチ(GTA)

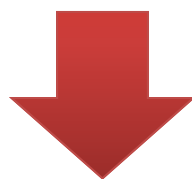
考察

どんな結果・知見を得ようとしているのか

- 研究の目的、教育実践の目的と結果・考察が一貫性をもつように、常に意識する
- 得られた知見の有効性、発展性及び限界（適応可能な範囲）を明らかにしておく

論文審査をしていて困ること

- 実践の内容がよく分からない・記述が不十分
 - 査読では、推測して読むことはできない
- 推敲が不十分なものがある(了解性が不十分)
 - 査読は、論文の添削をするわけではない



- 投稿前に試読をしてもらう
- いい論文をたくさん読んでみる

どんどん発表しよう

- 日本教育メディア学会のイベントで発表しよう
 - 全国大会(年1回 10~11月)
 - 研究会(年2回)
 - 7月前後と2月前後
 - 編集委員会・企画委員会の合同ワークショップ(年1回 特集号との連動)
 - ICoME(年1回 2016年8月18日~20日 京都外国語大学
✕切 2016年5月14日)
- 発表する際に意見、コメントをもらえるように意識してみよう
- 発表後(休憩時など)に、意見を求めてみよう

論文を読もう

- 教育メディア学会 バックナンバー
<http://jaems.jp/journal/>
- CiNii <http://ci.nii.ac.jp/>